

子どものころ、両親から「石岳に行こうか」と言われて、よく連れて行ってもらった市熱帯動植物園。動植物園の思い出は、写真となって実家に保管されています。先日写真を見ていると、今と変わらない風景が写っており、母はわたしが園内で迷子になった話してくれました。思い出残る動植物園も活性化計画が動き出します。今後は毎年違った風景になることでしょう。新しい動植物園に期待しながら、思い出がなくなるような寂しさも感じ、現在の様子を少しでも写真に残したいと思っています。写真と言えば、動植物園では、9月27日までフォトコンテストを開催中です。皆様のご応募をお待ちしています。(Y)



元気な朝ごはんレシピ

スタミナ満点ネバネバ丼



材料・4人分

納豆(小粒かひき割り)	4パック
ツナ缶詰	120g
オクラ	4本
マヨネーズ	大さじ4と2/3
ご飯	800g
スライスチーズ	4枚
なめたけ(瓶詰)	大さじ4
炒りごま	小さじ1
小ネギ	12g



●考えていただいた人
武林佑佳さん
(長崎国際大学4年・当時)

●ワンポイント 時間がない朝でも簡単に作ることができ、胃に負担がかかりにくい一品です。

作り方

- ①オクラはさっとゆでて、小口切りにする。
- ②ツナは油をよく切ってほぐし、納豆と混ぜ合わせる。
- ③②に納豆の付属のタレ(ない場合はしょうゆ少々)とマヨネーズを加えてよく混ぜ、①とあえる。
- ④小ネギは小口切りにする。
- ⑤温かいご飯の上にスライスチーズをのせ、その上に③をのせる。
- ⑥⑤の上になめたけをのせ、その上から炒りごまと④を散らす。

●1人分の栄養価
熱量580kcal、たんぱく質20.6g、脂質26.8g、塩分1.7g

歴史散歩



第529回



標高四四五・一メートルの将冠岳山頂に高さ八十センチの石柱があります。旧字体で、上部に右から左への横書きで「二等」、その下に縦書きで「三角點」とあります。石材は花崗岩(白御影石)で、右側面に「基本」、左側面に「地理調」と記されています。

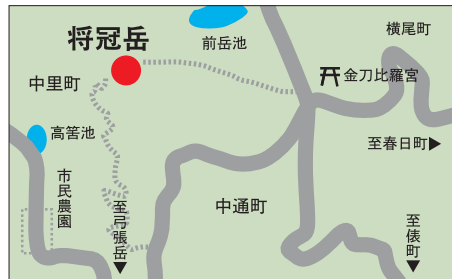
国土交通省国土地理院九州地方測量部(福岡市)に問い合わせたところ、「国土の三角測量をする基準点で一等から四等まである」とのこと。山は将冠岳なのに名称は「田島岳」となっていて、最初は明治二十八(一八九五)年に設置されました。これは、測量を担当したのが陸軍参謀部で、当時、要塞地を守る砲台設置も進めており、伝聞で但馬岳の名を知り、文字を確かめずに誤記し、砲台名と共に三角地点の名も田島岳として

て残ってしまったとみられます。現在も古めかしい旧字体の二等三角点ですが、当初のものから五十年後の昭和二十三年に再設置され、同三十三年に再び更新したと記録されています。しかし、旧字体や右から左への横書き、さらに石碑自体の風化など、昭和三十三年に新設されたとは思えません。「古い石柱の再利用ではないか」との疑問が残ります。

ともあれ、巨岩が累々と折り重なる山頂からは、南に佐世保港、西に九十九島の展望が開き、東は市役所から横尾―春日町方面を見れば、爽快な気分が味わえます。登山ルートは横尾町や梅田町方面から整備され、金刀比羅宮の鳥居が急斜面登り口の目印になっています。

山頂には八天宮が、また東側のがけ下には岩早姫命の石祠と石造の坐像が置かれ、古い山岳信仰や戦国武将遠藤但馬守と、その娘で白縫姫の悲劇の伝説を物語っています。

筒井隆義



平和市長会議と佐世保市



港の大部分が制限水域となっている佐世保港

6月下旬、「本市が今夏長崎市で開催される平和市長会議に参加しない」旨の報道がなされました。この件について、市民の皆さんからご質問などいただきましたので、改めてその見解について申し上げます。

本市は平成元年に「地球環境保全・平和都市宣言」を行っており、その中で核兵器の究極的な廃絶を謳っています。核兵器の廃絶については、核兵器不拡散条約など国が国際的な取り決めの中で求めていく方針を示しており、本市もその考えを基本としています。

また本市では、日米安全保障条約に基づく地位協定により、多くの土地等が米海軍に提供され、市内に多数の艦船や施設が配置されるなど、他都市とは異なる事情もあります。佐世保港の約83%が米海軍への提供水域となり、港の利活用が制限されるため、漁業者の操業に支障を来し、港湾の民間活用ができないなど、国策への協力は本市の発展を阻害する要因にもなっていますが、本市はそうした犠牲を払いながらも、我が国の安全と防衛、そして世界平和を維持するため、長年協力を続け、大きな役割を果たしています。

平和市長会議に参加している市の中には、平和を謳いながらも国交がある国の艦船寄港を拒否されるなど、国際間の慣例と異なる行動をとられているところも見受けられます。こうした行動を本市の実情や立場に照らし考えてみると、やはり理解し難く、市民の皆さんや議会においても同じような声为上

がっています。

本市が平和市長会議に加盟するためには、本市の実情などを踏まえた上で、佐世保の皆さんが納得できるような説明が必要です。私が平和市長会への加盟を直接呼び掛けられたのは、平和市長会議と関係がない席上で、たまたま隣り合わせになったときでした。「県内の佐世保市以外の市は全市入っているから加盟してください」とのことでしたが、平和市長会議への加盟は市にとって重要なことであり、その場では納得できるような説明も聞けなかったため、「市民や議会の中にもいろいろな考え方があり、今はご返事ができない」としか申し上げることができませんでした。

ちなみに、平成元年、「地球環境保全・平和都市宣言」のとき、私は佐世保市議会議員でした。議会として1年近く徹底的に議論し、そして本会議で採択となりました。

「平和」という言葉だけで、「同床異夢」ではいけないと思います。「同床同夢」になるように合意形成づくりが必要であると思います。

佐世保市長 朝長 則男

地球環境保全・平和都市宣言

私たち、佐世保市民は、平和で安全な市民生活と美しい郷土を守り、人類の繁栄と世界の恒久平和が実現されることを希求する。

然るに、科学技術の発達は、人類に豊かさや利便さを与えた反面、これを背景とした軍備と経済活動の拡大は、生態系破壊の危険と飢餓、貧困の社会問題をもたらしている。

とくに、人間を含む地球上の全ての生物の平和と生命を守るために、今日ほど、全人類がその叡智を働かせ、地球の環境保全、核戦争の防止、省資源、省エネルギーに努力することが求められたことはない。

私たち、佐世保市民は、このような認識にたち、全市民が一致し、その解決に努力しているが、今日の世界では自然環境の破壊が人類生存への大きな脅威となっており、又核兵器は依然として存在していることに鑑み、国に対しては国是たる「非核三原則」の厳守を、核兵器保有国に対しては軍縮の推移と核兵器の究極的な廃絶を求め、全世界に対しては美しい地球で平和な日々を送られるよう、相携えて努力することを決意するものである。

ここに佐世保市は「地球環境保全・平和都市」を宣言する。

平成元年12月21日 佐世保市長